

三宅島ネイチャーガイド

穴原 奈都 「未来に繋ぐ故郷の海」



＜プロフィール＞

東京都三宅島生まれ。

三宅島を拠点に研究活動していた海洋生物学者、故・ジャック・モイヤー博士に影響を受け、海洋生物に興味を持つ。

2000年、三宅島雄山噴火により全島避難。

東京都あきる野市で避難生活中に都立高を経て横浜国立大学に進学。

横浜国立大学大学院へと進学し、生物海洋学を専攻。

2007年「三宅島海洋教室実行委員会」を設立。

2010年大学院修了後、帰島。

三宅島でネイチャーガイド、家族でカフェを経営。島の観光PR、イベント企画、海洋自然体験なども含め活動中。

南伊豆エコツアー・ネイチャーガイド

堀 直也 「サーファースピリッツで 挑む海辺の環境学習」

<プロフィール>

1977年神奈川県横須賀市生まれ。1999年東海大学海洋学部海洋土木工学科卒業。2001年に「エコサーファー」という環境活動を行うサーファーのグループを湘南で立ち上げ、海岸清掃、環境教育プログラム、ビーチマナーの運営など環



境に関する様々な取り組みを実施。2011年7月に湘南の藤沢市から南伊豆に移住。

弓ヶ浜(日本渚百選のビーチ)から徒歩5分の元民宿を拠点に、南伊豆エコツアーを立ち上げ、ネイチャーガイド、小学生を対象にしたキッズ冒険合宿の運営、環境教育に関する講師・講演などで活躍中。

環境ボランティアサークル亀の子隊代表

鈴木吉春 「きれいな海を守る心を ひろげるためのプロジェクト」

<プロフィール>

1955年 3月 愛知県田原市福江町(旧渥美町福江)生まれ。

1998年 4月 田原市(旧渥美町)立亀山小学校に勤務。

「西の浜はゴミ箱じゃない!」の総合的な学習を始める。

1999年 11月 子どもたちと相談し、西の浜の活動を続けるために「亀の子隊」を結成。



社会福祉協議会に登録。以来、子どもたちに代わり事務局として活動記録の作成、広報活動、外部との渉外などを始める。他団体との渉外や行政・企業への登録が多くなり、肩書きが必要ということで、亀の子隊代表となる。

2001年 4月 転勤したことをきっかけに毎月1回の「西の浜クリーンアップ活動」では毎年1,000人の参加者を募り、活動を広めている。

また、年に数回の体験型環境教育「海の環境を学ぶ会」を行っている。

現在、田原市立赤羽根中学校に勤務(平成24年4月～)

NPO法人 海の達人 理事長

大野木博久 「海のバリアフリーまつり」



＜プロフィール＞

1953年三重県鳥羽市生まれ。

三島由紀夫の代表作「潮騒」の舞台としても知られる伊勢湾口に浮かぶ周囲約4kmの「神島」で中学までの13年間を暮らす。「海は嫌いだ！」と離島、伊勢市の高校を卒業。1979年(株)ダイイチに入社。そこで海の嫌いな男がレクリエーションとしての海を知る。自身も釣りを趣味とし、国内外への遠征釣行を楽しんできた。

2006年「小中高大学生一般住民に対して、海に関する事業を行い、もってすべての人々が自然に親しみ健やかに暮らせる地域社会づくりとスポーツの振興に寄与する」ことを目的に『NPO法人海の達人』を設立、理事長に就任。同年「海というフィールドが障がい者と健常者の差がなく、安全に楽しんでもらえる場として広く周知する」ことを目的に『海のバリアフリーまつり』を開催。2012年、第7回目を開催した。その他「セイラビリティ活動」、「海の運動会」などマリーナ河芸を起点に多種多彩な企画をし、「安全で楽しい且つ健全な海洋レジャの一普及」に取り組んでいる。

ほっかいどう海の学校

大塚英治 美しい海づくりプロジェクト ～市民協働による環境と安全・学びのまちづくり～



<プロフィール>

北海道小樽市生まれ(43才)。
東海大学にて海洋学を学び、在学中にダイビングインストラクター(NAUI)へ、その後ダイビングショップも経営する海洋調査会社へ就職。
2006年 海洋研究者、ライフセーバーなどと「ほっかいどう海の学校」を立ち上げ、日本海、太平洋、オホーツク海に面したユニークな北方海域の魅力を「学び」をキーワードに発信、海を活用した地域活性化へアプローチしている。

(株)沿海調査エンジニアリング 常務取締役
全漁連環境・保全支援活動技術サポート専門家
ほっかいどう海の学校 事務局長
小樽ライフセービングクラブ 理事
NPO法人海に学ぶ体験活動協議会 理事